令和５年度
校長だより

あかつき

２月号

～　あかつき山の麓から感謝を込めて～

丹波市立新井小学校　　校長　谷川知美

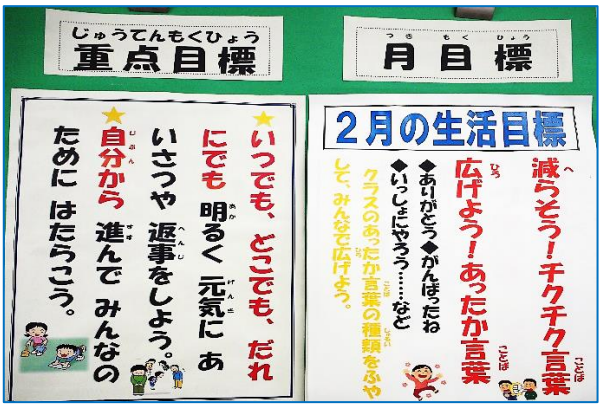
　春寒の候、地域の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素から本校の学校教育活動へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

　先日は、６年生が１５０周年の卒業を記念して『シダレザクラ』の植樹を行いました。来年、再来年と大きくなり、立派な木に成長する日が楽しみです。

【６年生が植樹する様子】

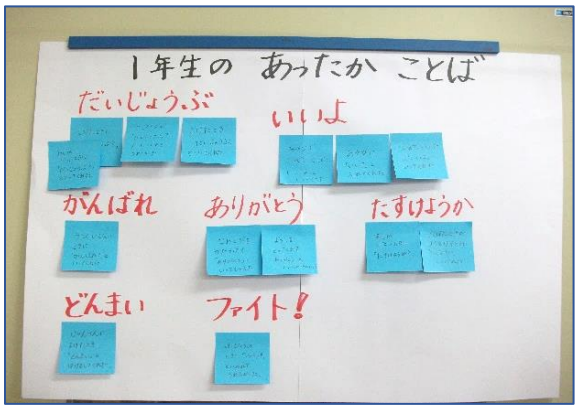
あったか言葉・チクチク言葉

　この見出しの言葉を聞かれたことはありますか？　学校では２月の生活目標として、子どもたちが取り組んでいます。言われたりされたりして、心がぽかぽかしたり、うれしくなったりするのが「あったか言葉」、さむざむしたり、悲しくなったりするのが「チクチクことば」です。



　教室では、「ありがとう」「がんばったね」などうれしかった気持ちを発表したり紙に貼って掲示したりしてみんなで共有し、クラスづくりを進めています。行動した側も、それを受けた側も笑顔が増える活動です。

【１年生の教室に掲示】



　この活動には、他人と自分を大切にすることやコミュニケーション力を向上させ、一人一人の自己有用感を高めるというねらいがあります。それと同時に心の栄養を養うことで、子どもたちの心を優しい気持ちでいっぱいに満たし、脳が豊かに育つことも期待できるものです。

マルトリートメント

「mal（マル）」＝悪い
「treatment（トリートメント）」＝扱い
「Maltreatment」＝不適切な養育

1980 年代からアメリカなどで広まった表現で、日本語では「不適切な養育」と訳され、子どもの健全な発育を妨げるとされています。

友田明美 福井大学子どものこころの発達研究センター教授・副センター長の研究によると、大きな声で叱ったり、しつけの一環として手加減をしてたたいたり、子どもへの態度を変えたりするマルトリートメントを体験すると、子どもたちの心が傷つき、同時に脳が傷つくのだそうです。

外見からはわかりづらい「心の傷」を可視化するために、脳を MRI で調べられ、虐待や体罰を受けた子どもの脳が、実際に変形しているということを明らかにされています。例えば、暴言により聴覚野が肥大したり、面前 DV により視覚野が委縮したり、体罰により前頭前野が委縮したりするのですが、これは脳が傷つくことから「自分を守ろうとする」防衛反応だと考えられています。

ただし、友田明美教授の研究には、マルトリートメントの経験で傷ついた脳や不安定になった心は、支援や心のケアで回復していくとも書かれています。

教室は大丈夫？

以前、先生方には教室でマルトリートメントはありませんか？　と川上康則氏の著書「教室マルトリート」を参考に、自己チェックをしていただきました。

① 問い詰めるように
「何回言ったらわかるの？」
② 本当の意図を語らずに
「やる気がないんだったら、もうやらなくていいから」
③ 脅して動かすように
「〇〇できなくなるけどいいの？」
④ 虎の威を借るように
「お母さんに言うよ」
⑤ 下学年や兄弟姉妹と比較するように
「一年生でもやらないよ」
⑥ 指導者に責任がないように
「さっき、約束したばかりだよ」
⑦ 見捨てるように
「じゃあもういい」「バイバーイ」

ほんの一部ですが、いかがですか？

私は、自分の担任時代や子育てを思いだし、感情で子どもたちに接したことがあったことを反省しました。

※ 福井大学教授　友田明美氏　「マルトリートメントが脳に与える影響と回復へのアプローチ」　（発達障害研究　第４４巻　第１号　2022 年）
※ 公認心理士　川上康則氏　「教室マルトリート」（東洋出版社）

学校が、がんばっていること

私たちが育ってきた時代の子育てとは一味違うと思われたかもしれませんが、新井小学校では、本当に素直でかわいらしい子たちに、教室でマルトリートメントの経験をさせないよう教師自身が意識して指導や支援を行っています。また様々な取組を通して、イヤイヤ期や思春期など反発したように見える姿も成長ととらえ、一生懸命に自分らしさを光らせようと頑張っている姿勢を尊重しています。それが自我や自立へ向かう大切な成長過程であると考えるからです。

子どもたち同士でもあったか言葉が飛び交う新井小と、そんな子どもたちを育ててくださっている新井地区を、私も先生方も毎日いとおしく感じています。

引き続き、温かく子どもたちと学校を見守っていただけると幸いです。